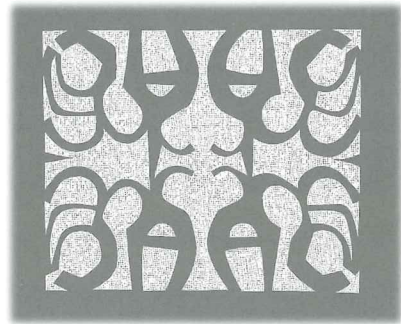


第19回

由利本荘美術展



由利本荘美術展略史

【前身の本荘由利選抜美術展】

・平成2年8月10日、旧本荘市の主催で「本荘由利芸術文化展懇談会」が開催され、旧本荘市、由利郡域の美術作家らによる想像性豊かな作品の発表と芸術文化の向上を目標に、絵画、書道、写真、工芸の各分野から選出された実行委員会が設けられた。

・実行委員会において、名称を「本荘由利選抜美術展」とし、第1回展を平成3年1月12日から16日までの5日間、勤労青少年ホーム（美倉町）を会場に開催した。出品数は絵画18点、書道27点、工芸4点、写真15点の計64点であった。

・第11回展（平成12年）からは名称を「本荘由利美術展」とし、第13回展からは規模を拡大し作品の充実を図るため、会場に本荘文化会館を加え、平成16年まで続けられた。

【由利本荘市誕生を契機に由利本荘美術展へ】

・平成17年3月の由利本荘市誕生により、主催が由利本荘市教育委員会となり、この年から名称を変更し、「第

1回由利本荘美術展」（平成17年10月）として新たな出発を果たす。

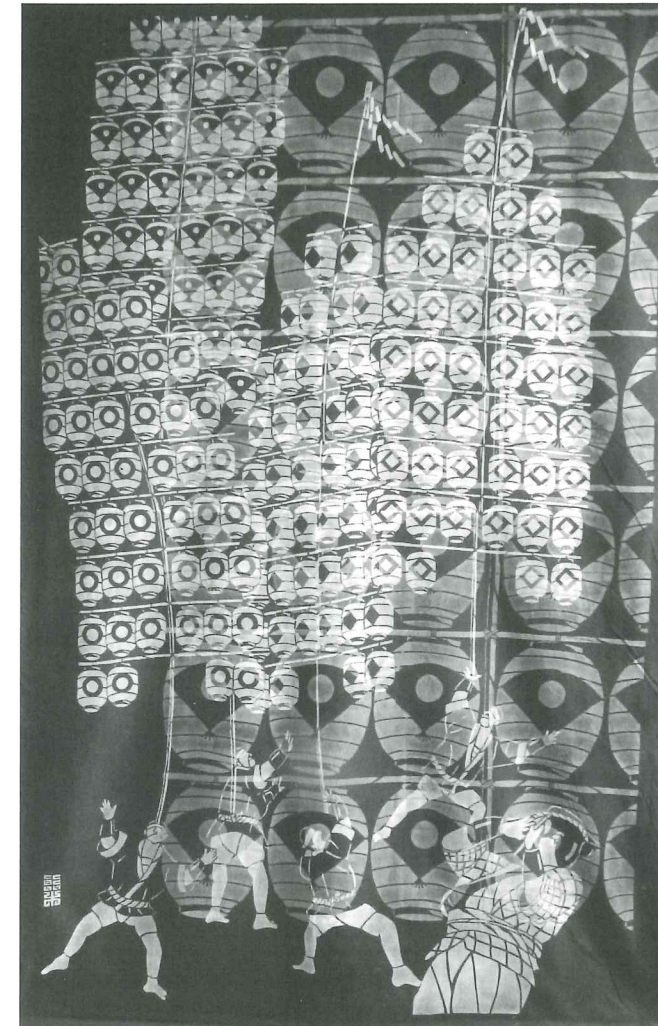
・展示だけではなく、第5回展（平成21年）では揮毫会、第6回展（平成22年）では日本画（水墨画）の指導と実演が行われるなど、新たな魅力の向上に努めてきた。

【新しい会場 由利本荘市文化交流館「カダーレ」】

・平成23年12月に由利本荘市文化交流館「カダーレ」（東町）が開館したことにより、20年余り会場となってきた勤労青少年ホームおよび本荘文化会館を離れ、カダーレのギャラリーを会場に第7回展（平成24年1月）を開催し、今日に至っている。

・最初の本荘由利選抜美術展開催以来、会場や開催時期の変更はあったものの、実行委員会体制、基本理念はほぼ不変のまま、地域の美術作家の創作意欲の高揚とレベルアップ、そして地域住民の芸術への関心を高めることを目的に継続され、第15回由利本荘美術展（令和2年2月）で記念すべき通算30回を数えた。

ロゴデザイン：吉尾 芳郎



令和6年2月3日(土)~2月7日(水)

午前9時~午後5時 [2月7日は午後4時まで]

由利本荘市文化交流館「カダーレ」ギャラリー

主催／由利本荘市・由利本荘美術展実行委員会

後援／にかほ市教育委員会・由利本荘市芸術文化協会連合会

秋田魁新報社・読売新聞秋田支局・朝日新聞秋田総局・毎日新聞秋田支局

NHK秋田放送局・ABS秋田放送・AKT秋田テレビ・AAB秋田朝日放送



六郷氏・岩城氏・打越氏
由利本荘市 入部400年記念事業

由利本荘美術展へようこそ

由利本荘美術展実行委員会 実行委員長 高橋 重保
由利本荘市観光文化スポーツ部長

『第19回由利本荘美術展』にご来場いただき、誠にありがとうございます。

前身にあたる『本荘由利選抜美術展』を平成3年に開催して以来、芸術文化の力を結集し毎年継続されてきた本美術展は、地域の方々に長らく親しまれてきました。地域の皆さまの芸術への高い関心や、積み重ねてこられた活動によって支えられ、本荘由利圏域の文化力向上における大きな柱の一つとなっております。

由利本荘の文化力を高める理想を掲げた本美術展が、地域の美術を身近に感じられる場として親しまれ、継続して開催できていることを嬉しく思うとともに、開催にあたりご尽力いただきました実行委員の皆さまをはじめ、出品いただきました皆さまには、心よりお礼申しあげます。

会場には、絵画、書道、工芸、写真の4部門において、にかほ市、由利本荘市を代表する122名の作家の作品が一堂に会しております。ご来場の皆さまには、多彩な作品との出会いをお楽しみいただければ嬉しく思います。どうぞごゆっくりとご鑑賞ください。

絵画部門

赤川 祐輝 (矢島)	山の景色2	佐藤 よう子 (本荘)	古いカメラ
秋山 長子 (矢島)	桜径	渋屋 美翠 (象潟)	秋声
岩井 和子 (仁賀保)	溪流	鈴木 司 (本荘)	冬をまとう2023
打矢 恵 (本荘)	晩秋	鈴木 久子 (西目)	にかほ市樋目野
加賀谷 妙子 (本荘)	ジキタリスの庭	鈴木 裕人 (本荘)	Nightmare
潟保 卓雄 (西目)	椿咲く頃	須田 江美子 (象潟)	漁港
加藤 新市 (本荘)	奥入瀬溪流	高山 恭子 (本荘)	あけぼの
工藤 由紀子 (本荘)	残雪	戸蒔 光子 (仁賀保)	もう1人の私
熊谷 和子 (仁賀保)	ぜーんぶまんまる	野崎 静子 (本荘)	銀座界限
小松 美枝子 (本荘)	木洩れ日	長谷川 清作 (仁賀保)	老いた木
今野 和子 (本荘)	火の鳥	畠山 紘一 (仁賀保)	冠雪鳥海
斎藤 良子 (仁賀保)	鳥海山	正木 良子 (本荘)	破邪
佐々木 清 (本荘)	まちおこしの景色	三浦 久美子 (大内)	秋を感じて…
佐藤 寛季 (本荘)	魔女の大釜	三浦 弘美 (本荘)	通学路
佐藤 憲男 (仁賀保)	ピオラの花	森本 マヤ (仁賀保)	愛猫翔ぶ
佐藤 紀子 (象潟)	元滝	横山 政昭 (象潟)	春の鯨見岬

書道部門

会津 千寿子 (本荘)	奇跡の花園	遠藤 佳苗 (由利)	真人のうた
秋山 由美子 (矢島)	魏霊蔵造像記	遠藤 芙美子 (本荘)	汐風の詩
阿部 清楓 (本荘)	母ちゃん	大須賀 青玉 (仁賀保)	雨
安倍 青珠 (仁賀保)	久保田万太郎の句	岡本 真貴子 (本荘)	加藤秋晴女の句
安倍 波音子 (仁賀保)	正岡子規の句	小笠原 十駕 (大内)	鐵面皮
伊藤 勁草 (岩城)	元好問詩	菊地 謙二 (岩城)	雪暮
伊藤 清子 (由利)	月光の瀑布	小島 弥恵子 (本荘)	阿部晴子の句
植田 清寛 (本荘)	轡田進の句	斎藤 豊華 (本荘)	王昌齡詩

齋藤 豊翠 (本荘)	陳子昂句
佐々木 一映 (大内)	詩書思酒筆藻夢華
佐々木 欽月 (岩城)	朱熹詩 偶成
佐々木 幸子 (大内)	見付拓の詩より
佐藤 直哉 (金浦)	保養鬱散
鈴木 洸舟 (象潟)	述懐「魏徴詩」
鈴木 民雄 (本荘)	経文緯武
竹内 美穂 (象潟)	小野川雨京の詩
津島 一美 (岩城)	送杜少府之任蜀州

富樫 良子 (本荘)	蜂の目覚め
那須 瑠美 (本荘)	滝口滋子の句
藤原 豊道 (本荘)	常建詩
宝池 貞子 (西目)	小林一茶の句
星川 草春 (大内)	子夜春歌
星川 裕子 (大内)	瓠子曲彎々
三浦 豊湖 (岩城)	張均詩
三浦 芳流 (矢島)	冬花火
横山 和萩 (本荘)	大野田井蛙の句

工芸部門

青木 清子 (仁賀保)	天鷲ぜんまい織 名古屋帯	佐々木 イサム (象潟)	鷲凶彫金飾箱
阿部 登志子 (本荘)	菖蒲・菊	佐々木 千恵子 (本荘)	布目花紋つぼ
伊藤 成行 (岩城)	白滝と紅葉 (水指と茶碗)	佐々木 弘子 (本荘)	つわ露
小野 利彦 (東由利)	風を想う	佐々木 弘子 (本荘)	布目壺
小野 信子 (東由利)	追憶	佐藤 憲 (象潟)	灰釉花入
加川 信子 (西目)	香華	佐藤 咲夫 (本荘)	木象嵌文箱
菊地 志保子 (本荘)	霧雨	佐藤 美也子 (矢島)	庵
熊木 雲舟 (象潟)	灯の競い	須田 敦子 (東由利)	待ちぼうけ
倉田 鉄也 (西目)	井戸茶碗	高橋 由美子 (本荘)	冬 (面象嵌)
小林 貴子 (本荘)	友禅名古屋帯 沈む太陽昇る月	田口 多喜子 (本荘)	秋叢凶皿
小松 富士雄 (仁賀保)	窯変水指	土田 いせ子 (矢島)	深海
今野 矩子 (本荘)	御殿まり (大・小)	古木 保雄 (本荘)	幾何紋壺

写真部門

秋山 幸子 (本荘)	秋彩	櫻庭 一二 (本荘)	百宅集落の春
阿部 重助 (東由利)	春を喜ぶ	佐々木 正美 (本荘)	巣立ち準備
五十嵐 幸二 (象潟)	光の架け橋	佐藤 繁 (仁賀保)	秋風
石川 武 (本荘)	時は流れて輝く	佐藤 拓自 (本荘)	法体の滝
岩井 敏一 (仁賀保)	良いもの撮ってるか!	繁野 正俱 (本荘)	静寂
鎌田 淳一 (岩城)	騎馬武者	荘司 昭夫 (西目)	由利本荘市のお客さん
菊地 英子 (大内)	欲しいなあ!	鈴木 生喜 (本荘)	青き静寂
菊地 弘 (大内)	生涯現役94歳!	須藤 秋男 (本荘)	ダイヤモンド鳥海
菊地 光男 (仁賀保)	ひと休み	須藤 勝 (仁賀保)	競うて!!
木村 雅之 (本荘)	天空の舞	高橋 哲広 (大内)	冬ざれ
小杉 幸男 (本荘)	晩秋	高山 明 (本荘)	こんにちワン
小松 芳春 (仁賀保)	光射す	竹中 京二 (本荘)	夕照
金 道博 (象潟)	春一番	増村 均 (仁賀保)	昇り竜 (紙風船)
今野 清美 (仁賀保)	深夜の大搬送 (仁賀保高原へ)	宮田 征文 (本荘)	豊漁の夕べ
齋藤 悟 (本荘)	朝焼けの海	柳橋 久 (本荘)	伝統を紡ぐ
齋藤 久 (西目)	よくぶつからねな	和田 昭男 (本荘)	お神楽の邪気祓い